

言語表出が少ない自閉症を併せ持つ知的障害児の意思の表出を促す指導

— 児童が選択し、相手に伝える機会を大切にした学習を通して —

研究の概要

特別研修員 特別支援教育 長谷川真衣子（特別支援学校教諭）

目指す児童像

自分の思いをより良く相手に伝えることができる児童

自己選択の力

手立て1

選択カードの中から欲しい物を自分で選ぶ力を高めるための工夫

- ・選択カードと欲しい物の一致（選択カードの内容の理解）
- ・選びやすい選択カードの提示

手立て2

相手に伝える力を高めるための工夫

- ・相手に伝えたいと思う必然性のある場面の設定（伝えようとする意欲の高まり）
- ・相手に伝えることで思いがかなう経験の積み重ね

相手に伝える力

児童の実態

意思の伝え方 欲しい物やしたいことのある場所で立ち止まる。
欲しい物の近くに大人の手を持っていくことで思いを伝える。

したいことが分かってもらえないよ。どうやって伝えたらいいの？



今ここにある物しか「欲しい」と伝えられないよ。

どうせ分かってもらえないから、言われたとおりにしよう。

課題 自分の思いを伝える手段が少なく、伝わらないことが多い。伝わらない経験を積み重ねているため、思いを伝えようとする意欲が低下している。

授業実践

題材名 お店屋さんごっこをしよう

欲しい物を自分で選ぶ力を高めるために

選択カード(チケット)の内容の理解

商品の写真が付いたチケットを選択カードとして使用した。新しい商品を加える時には、その商品のチケットを示しながら試食を行い、選択カードと商品の一致が図れるようにしたことで、欲しい物のチケットを自分から選び、注文する姿が見られた。



(試食)このチケットでチョコレートがもらえるんだな。

欲しい物を自分で選ぶ力を高めるために

選びやすい選択カードの提示

選択用ボード(メニュー)を提示し、注文したいものを一覧から選べるようにしたことで、自分からチケットを指さすようになった。



これが飲みたいな。



お店の人に伝えてもらえん。

相手に伝える力を高めるために

伝えたいと思う必然性のある場面の設定

児童が好きなお菓子和ジュースを扱うお店にすることで、食べたいものを店員に伝える(注文する)必然性のある場面を設定した。カードを何度も強く指さして伝えたり、大きく手を差し出して相手にチケットを手渡そうとする姿が見られた。

相手に伝える力を高めるために

相手に伝えることで思いがかなう経験の積み重ね

誰に伝えるかを意識できるように、チケットを店員に手渡し手続を取り入れた。教師の促しにより、店員にチケットを手渡して注文し、商品を受け取って食べる活動に繰り返し取り組んでいた。

これが飲みたいです。



りんごジュースですね。

相手を意識できるようになるための指導のポイント

- ・手渡し際の適切な距離
- ・チケットを手渡せた時の指導者の共感的反応
- ・商品を準備する場面を設け、期待感を持って相手の対応を待てるようにする

成果

- 休み時間に教師が「何をして遊ぶ」と問いかけ、6枚の選択カードを示すと、自分が行きたい遊びの選択カードを1枚指さし、自分から移動して遊ぶことができるようになった。
- お店屋さんごっこで、相手を見ながら選択カードを渡したり、選択カードを何度も強く指さしたりするなど、相手を意識して伝えようとする姿が見られるようになった。相手に伝えたいと思う必然性のある場面設定により、本児の伝えたい気持ちを高めることができた。

課題

- 本実践では、選択カード(チケット)の使い方を理解し、好きな物を選んで注文することができるようになったが、校外学習で外食をするような場面では、試食や繰り返しの経験ができないことから、選択カードを使って注文することは難しかった。
- 本実践で、意思を伝えるために本児が自分から行ったのは、選択カードの指さしを中心であった。指さしは、「どれ?」と聞かれた時には有効な答え方である。しかし、自分から意思を伝えるには、カードを手渡すなど、より主体的な伝え方を確実にしていく必要がある。